

編 集 後 記

働き方改革関連法案により、医師においても長時間労働の是正と、さらに医療の質や安全を確保するというチャレンジな改革にすべての医療者が取り組まなくてはならない状況になりました。確かにマンパワーを変えずに働き方だけを変えるという矛盾を、仕事の効率性やタスクシフティングにより克服できるかはかなりチャレンジな課題です。しかし考えてみればすでに若い医師は、ワークライフバランスを我々の世代よりも重視しており、女性医師においてもキャリア形成を見据えた選択がなされている傾向にあります。かくして専門性の偏在が生じ、医師の地域偏在もこの延長線上にある問題ととらえられると思います。脳神経内科はこれから超高齢社会の中で求められる役割が大きくなり、より多くの人材を必要とする現実があります。こうした背景の中で脳神経内科はこの2つの課題、すなわち働き方改革と脳神経内科医の獲得を同時に推し進めることが必要となります。

働き方改革は論文投稿にも影響を与えるのでしょうか？仕事の効率化やタスクシフト等の対応が進む中で、バラン

スを考えた有効な時間の利用が望まれます。その中で埋もれている症例の報告や、研究の論文化に際して効率的に生産性をあげていくことがこの領域に活性化に必要です。そのためにはリーダーシップの時代になります。リーダーは論文の書き方もより効率のよい指導をしなければならないと自らを省みつつ考えています。若い先生がこの症例をただ「まとめろ」と言われても何をしてよいかわからず、時間のみ浪費することになると思います。指導者はともに考え、時には複数で議論する中で若い先生もよりイメージがわき、調べるべき論文にたどり着き、論文完成のゴールに近づいていくのです。このプロセスがない中で埋もれてしまう症例や研究があると思うと大きな損失だと思いませんか？もう「これやっという」はやめて、その意図を若い先生に正確に伝えることで無駄のない、しかも教育的な論文作成ができるものと思われま。臨床神経学はそのような教育的配慮が行き届いた論文投稿を歓迎します。我々がやるべきは働き方改革よりもリーダーシップ改革なのです。

(坪井義夫)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第59巻 第6号 2019年6月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>